

経済理論とその応用

教授 千田亮吉

1. 研究内容

本ゼミナールでは、基礎的な経済理論を現実のさまざまな経済問題に応用し、われわれが暮らしている経済社会をよりよくするための方策を考えていく。特に、データを用いた実証的な分析に基づいて、さまざまな政策を定量的に評価することに重点を置く。ゼミナールでの研究成果は、対外的な活動の中で、その分野の専門家の評価を受けることになる。

本ゼミナールの研究では、現実問題への応用という部分で、大量のデータとパソコンを用いた分析が必要となる。数学や統計学の知識は特に事前には必要ないが、これらが苦手な人はそれを克服しようという意欲を持ってもらいたい。また、ゼミナールでの共同作業、他大学の学生との討論などを通して、自分の特性に関する認識を深めてもらいたい。みなさんが将来の進路をきめるうえで、このことは大変重要な意味を持つ。

2. ゼミの進め方

《2年次》

基礎的な経済理論を確実に理解してもらおう。その際に、一見抽象的に見える経済理論が、現実の経済問題を解決するためにどのように応用できるのかという視点を重視する。また、理論と現実をつなぐために、データを用いた分析手法に関する実習も行う。さらに、2020年度は「水道料金」、「オリンピックの経済効果」、「所得再分配」、「教育の経済効果」、「サブスクリプションの波及効果」の5班に分かれて研究論文を作成している。合宿は夏季および春季に行なう。

《3年次》

グループによる研究論文の作成が中心になる。具体的な研究テーマについては、毎年学生と相談して決めている。2020年度は5班に分かれて、「生活保護制度の改善」、「環境税の導入」、「テレワークの導入」、「キャッシュレス化の推進」、「食品ロスの解消」を研究テーマとした。われわれは数多くの切実な問題に直面している。入室希望者は、現時点でどのような問題に最も関心があるのかを明らかにしてもらいたい。合宿は夏季に行なう。

《4年次》

各自が卒業論文を作成する。卒論は広い意味で経済学に関わるもので、何らかの形でオリジナルな分析が含まれていることが条件になる。2、3年次のグループ研究のテーマを発展させてもよいし、4年次に新しいテーマを設定してもよい。卒論の中間報告の合宿を秋季に行なう。

3. 教材

入室後に指示する。

4. 成績評価の方法

研究報告の内容、グループ研究への貢献などから、総合的に判断する。

5. ゼミ入室試験（選考方法）

選考方法につきましては、Oh-o!Meijiにて、後日連絡します。

6. その他・志願者へのメッセージなど

研究成果は、ISFJ 日本政策学生会議主催の政策フォーラム（全国の大学のゼミナールが研究成果を報告するフォーラム）、学内外の他のゼミとの討論会といった対外的な活動で発表していく。学部内の奨学論文も目標とする。意欲的に研究に取り組み、この分野では誰にも負けないという自信が持てるような成果をあげてもらいたい。また、交換留学生も受け入れる。これまで多くの交換留学生が上記の対外的な活動等で成果をあげた。